KUMAMOTO

みつかる。つながる。よくなっていく。

YMCANEWS

\$8.9\$

No.604 2023

2023年8月21日発行 (毎月1日発行) 1984年8月15日第3種郵便物認可 発行所/(公財)熊本YMCA 〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1 Tel 096-353-6397代)



熊本YMCAのボランティア会員の代表である常議員会。今年6月に、常議員会の議長と副議長に就任したおふたりにお話を伺いました。

――おふたりのYMCAとの出合いについて伺いたいと思います。本田さんは 長年にわたり職員としてYMCAに関わっていらっしゃいましたね。

本田 1986年にコンピュータ関係の講師として入職しました。花畑町にあった国際センターがオープンした年です。衝撃的だったのが、当時の上司が「YMCAは10年いても分からん」とおっしゃったこと。普通の会社なら1年くらいいたら全体像が見えそうなもの。「なんてところに来てしまったんだ」と思うと同時に「YMCAはそれくらい広いし、深いんだろう」と思った記憶があります。

佐藤 私はワイズメンズクラブへの入会が始まりです。YMCAの全体像がなんとなく分かるようになったのはICRメンバーシップ委員会(現在のリソース推進委員会)のメンバーになった頃でしょうか。

本田 職員だった私は委員やワイズメンズクラブの皆さんとの関わりの中で、会員活動について意識するようになりました。例えば、1988年に開催された熊本YMCA創立40周年記念の式典に、職員ではないボランティア会員が来て協力しながら準備や進行をしている。共に讃美歌を歌ってお祈りをする。生産性だけを重視するのではない、会社組織とは違うすごいところに就職したんだと感じました。そして、業務を通して社会貢献ができるということは誇らしいと思うようになったんです。

----本田さんは2020年に、佐藤さんは2017年に、常議員になられました。

本田 一旦、YMCAの職員を退職した後にYMCA学院の就職課のパートスタッフをしていた時に当時の総主事から内線がかかってきたんですよ。「常議員になってくれませんか」と。

佐藤 私は仕事中に電話がかかってきました。すごく忙しいタイミングで、断っていいのかどうか尋ねる余裕もなかった(笑)。でも「また新たな形でYMCA全

体が見られるのかな」と思いました。

――6月からお二人は常議員会の議長と副議長を務めています。議長は常 議員の選挙によって、副議長は議長による指名で決定しますね。

本田 常議員会の時に、YMCA年末募金の実行委員長として募金活動について丁寧に分かりやすく説明されていたのが印象的で、佐藤さんに副議長をお願いしました。

佐藤 本田さんに頼まれたら断れないですよね。もしかしたら、この「あの人に頼られたら断れない」「この人がいうならやってみよう」という関係性を世代や性別を問わずつくることが会員活動の広がりにつながるのかもしれません。

本田 そうですね。6月に開催されたワイズメンズクラブの西日本区大会では、社会的に立場のある方が会場設営係としてイスならべをしていたり。他の場所ではそのようなことを頼まれることすらないかもしれません。様々な世代、立場の人たちが対等にボランティアとして関わっている。これがワイズメンズクラブ、そしてYMCAだと思いました。皆さんYMCAでの活動を通して新たな世界や価値観を得ていらっしゃるんでしょうね。

-----まさに、「もう一つの生き方」を具現化できるのがYMCAですね。

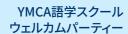
佐藤 この3年間、コロナ禍で会 員活動にも制限がありました。

本田 今後、対面での活動や地域の方と接する機会が増えることで新たなアイデアが浮かんでくるかもしれません。約2年間閉館していた東部センターが活動を再開し、浴衣まつりを開催できました。東



7月23日(日)に開催した東部センター浴衣まつり

Pickup







ウォーター セーフティーデー 「みんな泳げる 25m運動」

> 韓国大邱YMCA スタッフが研修 YMCA学院 日本語科と交流





部センターの復活を地域の皆さんが喜んでくださっていると聞いて嬉しいで す。

佐藤 私は、せっかく毎年、YMCA学院の学生やユースリーダーたちが巣立っ ていってるのだから、巣立ってすぐ戻ってこられるYMCAであるといいと考えて います。社会人1年目として、例えば愚痴を聞いてもらいたい、というようなこ とでもいいので集まれる場所があったらよいですね。

本田 実現していきたいですね。私はアフターコロナによる地域とのつなが りの回復と同時に、国際プログラムにも力を入れていけたらと思っています。 以前、甥がYMCAのキャンプでマレーシア・ボルネオ島に行きました。自然の生 態系が残っているジャングルを探検することにより、人の暮らしや文化、自然 界の多様性を学ぶことを目的としたキャンプです。普通の旅行ではできないこ

とが経験できるのがYMCA。YMCAらしいプログラムを行う中でYMCAへの理 解を深めていく。そこから会員活動につながっていくのではないでしょうか。

佐藤 「自分はYMCAの活動に参加している」「YMCAを通して社会に貢献し ている」。そんな風に会員としての意義を感じられる機会を皆さんに提供して いきたいですね。私は街頭募金やチャリティーランなど、身体を動かす活動が 好き。これからも実践重視です。

本田 熊本YMCA創立75周年の式典が九州学院のブラウン・メモリアル・チャ ペルで開催されます。会場が満杯になる様子を見ることでYMCAのパワーを 実感できるのかなと楽しみにしています。佐藤さんがおっしゃるように、実際に 顔を合わせて、身体を動かすことが次のエネルギーになっていくでしょう。イマ ジネーションを膨らませながら会員活動を進めていきたいですね。

能本YMCA創立75周年記念式典

熊本YMCAは1948年の創立より本年を以て75周年を迎えました。これまでの皆様の ご支援ご協力に深く感謝するとともに、この喜びを多くの方々と分かち合うことを願い、 記念式典並びに祝賀会を開催します。

■10月9日(月·祝)

場・時間記念礼拝・式典・講演会 13:00~九州学院ブラウン・メモリアル・チャペル(熊本市 中央区大江5-2-1)、祝賀会 17:00~ホテルメルパルク熊本(熊本市中央区水道町14-1)

内第1部記念礼拝

第2部 式典

第3部 講演会「(仮)熊本YMCA学院の取り組みからYMCA の未来の価値を探る」 講演者/原邦雄さん(ほ め育グループ代表・元神戸YMCAリーダー)

第4部 祝賀会

週YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397



nformation









YMCA祭を開催

楽しみながらチャリティに参加できるYMCA祭。今年もたくさんの皆さんのご来場をお待ちしています。

米しからからかり、アンドイに多加できる「MCAS」。			
	会場	日時	主な内容 ※各プログラムの時間はお問合せください
サザンフェスタ	みなみセンター	9月17日(日)	のみの市、キッチンカー、ゲームコーナー、カヌー体験
週 096-353-6391(音声ガイダンス[2])	(熊本市南区田迎)	11:00~15:00	
ながみね祭	ながみねファミリー	9月23日(土・祝)	のみの市、食バザー、ゲームコーナー、カヌー体験、スポーツ体験
週 096-353-6391(音声ガイダンス[3])	(熊本市東区長嶺南)	10:00~15:00	プログラム、ステージ発表など
チャリティーフェスタ	むさしセンター	9月24日(日)	のみの市、プール開放、息継ぎ習得教室、逆上がり教室、食バザー など
週 096-353-6391(音声ガイダンス[4])	(合志市幾久富)	9:00~15:30	
前進祭 圆096-353-6391(音声ガイダンス[1])	本館 (熊本市中央区段山本町)	11月5日(日)	キッチンカー、ゲームコーナー、大鯛どっこい、のみの市、YMCA学院生らによるステージ発表など
阿蘇まつり	黒川保育園	11月11日(土)	キッチンカー、ゲームコーナー、のみの市、園児によるステージ発
圆 0967-32-0213(尾ヶ石保育園)	(阿蘇市黒川)	12:00~14:30	表など
わいわいフェスタ 週 096-352-2981	熊本五福幼稚園 (熊本市中央区魚屋町)	11月23日(木·祝)	リユースバザーなど企画中

新2歳児〜新年長の保護者対象見学説明会 YMCAぶどうの木幼児園









キリスト教の教えに基づき、『共に育ち合う』 『神と人に愛される子どもに育つ』ように、保護 者と共に子どもたちを育てていくことを方針と し、体操・水泳・英語を交えた幼児教育プログラ ムを行うYMCAぶどうの木幼児園が2024年度 入園児の見学説明会を開催します。

■8月30日(水)10:00~11:30/9月20日(水) 10:00~11:30 場YMCAぶどうの木幼児園 (熊本市南区田迎みなみセンター内)

図新2歳児~新年長の保護者 図各15名

■開催日前日までにWebサイトからお申込み ください。



水前寺幼稚園(熊本市中央区出水)・熊本五福幼稚園(熊本市中央区魚屋町)は9月11日から2024年度願書配布 予定です

申申込 場会場 系 参加条件 ■日時 因 内容 費参加費 定定員 掛持ち物 対対象 催主催 締締切 間問合せ 個その他



$R \mid E \mid P \mid \widehat{\widehat{O}} \mid R \mid T$

社会貢献 子どもたちのために チャリティボウリング大会を開催



6月2日(金)、企業と企業人の社会貢献を推進するYMCAフィランソロピー協会がチャリティボウリング大会を4年ぶりに開催しました。18回目となる今回は子ども食堂の子どもたちの支援を目的とし、namcoワンダーシティ南熊本店ワンダーボウルを会場に、8企業・団体から14チーム、56名が参加。2ゲームをプレイしました。

ボウリング大会の参加費やストライクごとに個人が100円を募金する「チャリティストライク募金」で得られた約6万円の益金をもとに、お菓子やお米、

レトルト食品等をそろえ、7月6日(木)に子ども食堂「だんだん食堂」で贈呈式を実施。ボウリング大会で優勝した会員企業のリコージャパン(株)熊本支社がプレゼンターを務めました。寄贈品はだんだん食堂を運営する穴井智子さんが役員を務める「一般社団法人熊本県こども食堂ネットワーク」を通し

て、子どもたちのために役立てられます。※贈呈式の様子はWebサイトで報告しています。

総主事室 大塚永幸





国際支援 ミャンマーモガウンYMCA支援 報告&交流会を開催



みなみセンターは、ミャンマーモガウンYMCAと 共にエイズ孤児を支援。2015年に孤児院が完成 し、今もサポートを継続しています。

7月8日(土)、現地モガウンYMCA総主事のノジャさん、支援者の皆さん、企業、YMCA運営委員、ワイズメンズクラブの皆さんとオンラインで報告交流会を実施しました。2023年7月現在、孤児院には9名の子どもたちが生活。寮の運営資金のほとんどが熊本YMCAからの募金で成り立っています。しかし新型コロナ感染症やクーデターなど多くの困難があ

り、2020年2月以降は現地視察に行くことが叶わない状況です。報告・交流会では、自立した寮の運営を目指しつつも、内戦や物価高騰などの課題が多く、コロナ禍以前に行っていた魚の養殖や養鶏などの事業再開が難しい状況であることが報告され、引き続き支援を必要としていることが確認されました。個人や企業からの募金に加えてサザンフェスタ、古新聞回収、チャリティどら焼き販売などの様々な活動に取り組んでいきます。

みなみセンター 丸目陽子



国際交流 ボランティアツーリズム 香港の大学生グループが来日





熊本地震をきっかけに始まった香港理工大学の学生のボランティアツーリズムがコロナ禍を経て再開しました。大学生23名、大学職員2名、プログラムをサポートする香港中華YMCAスタッフ2名が7月7日(金)~12日(水)の日程で来日。阿蘇市のトマト農園やイチゴ農園での農業ボランティアや熊本地震被災地訪問をした他、YMCA黒川保育園やYMCA熊本五福幼稚園の園児、熊本県立大学の学生らと交流しました。

11日(火)には熊本YMCA本館を訪問し、熊本YMCA学院ホテル観光科の学生と交流。香港の学生が用意した思い出づくりのクラフトを共同作業で作成し、笑顔が絶えない時間となりました。その後、一緒に熊本城へ。熊本城回廊をたどりながら、英語で会話を楽しんでいました。YMCA学院の学生たちにとっても、国際交流をしながら熊本の観光を学ぶ貴重な実践の機会となりました。

熊本YMCA学院 中村賢次郎





内村鑑三著 後世への最大遺物から考える ~VUCA(不確実性が高く将来の予測が 困難な状況)の時代を生きる私たちへ~

日本のキリスト教思想家である内村鑑三の 講演録として有名な「後世への最大遺物」で は、後世に遺す価値があるものについて論じて います。日清戦争が起きた1894年に箱根の芦 ノ湖湖畔のキリスト教夏季学校で行った、日本

人学生に向けた講演の記録です。この夏季学 校は、今の静岡県御殿場市にある常設の宿泊 施設であるYMCA東山荘の歴史の中にも脈々 とつながっている出来事の一つです。当時は、 若者たちが全国から夏季学校に集まり、様々な 議論を交わしながら私たちの美しい国などに ついても論じていました。本書ではまず、「私に 50年の命をくれたこの美しい地球、この美しい 国、この楽しい社会、このわれわれを育ててくれ た山、河、これらに私が何も残さずには死んで しまいたくはない」との思いを語っています。そ して、後世に遺していく価値のあるものとして、 金、事業、思想を順番に説明したそうです。そし て、最終的に誰にでも遺せるものとしてたどり 着いた「本当の遺物」は、「勇ましい高尚なる生 涯」であるとして、次のように語っています。

「後世に遺すことのできる、そうしてこれは誰にも遺すことのできるところの遺物で利益ばかりあって害のない遺物がある。それは何であるかならば、勇ましい高尚なる生涯であると思います」

私たちが生きている現代社会は、VUCAの時代ともいわれており、不確実性が高く、将来の予測が困難な状況となっています。生成AI、AGI、ロボット、自動運転などの言葉を聞くたびに未来の姿が、分からなくなっていくようです。その中にあって、私たちが後世=未来へ遺すべきギフト=贈り物は何か。平和で素晴らしい生涯を送れるような生き方を示すことかもしれません。そのために会話を重視し、会話による平和な社会創造を目指していきます。

夏のYMCAキャンプ2023



川を探検しよう



日帰りから4泊5日まで、この夏もサマーキャンプでたくさん の子どもたちが夏を楽しみました。こどもえいごスクールの マリーンキャンプやながみねファミリーセンターのスマイル キャンプ、野外活動クラブの特別企画である幼児デイキャン プ、そして47回目を迎えたポニーキャンプも開催しました。







ウオ スライダー 楽しいね







第47回ポニーキャンプ



高の下駄になろう

熊本県立盲学校の児童を対象に、7月25日(火)~26日(水)の1泊2日の日程で開催しました。野外での原 体験を通して自然の大切さを感じてもらうこと、新しいことに挑戦して自信につなげること、人との交わりを 通して多文化共生を理解することが目的。菊池少年自然の家を拠点に、ニジマス掴みやキャンプファイヤー、 草スキー等を楽しみました。熊本ワイズメンズクラブと熊本YMCAの共催で開催され、熊本YMCA学院の学生 たちもリーダーとして子どもたちをサポート。YMCA年末募金も用いられています。草スキーでは子どもたちか ら「風が気持ちいい」という声もあがり、キラキラとした表情で何度も滑っていました。



いつも完璧ではないのですから。 要でしょう。しかし最も大切なことは、それを守り導かれ 書は教えるからです。 す。なぜならそこに、神の素晴らしい計画があることを、 それが人生の大きな転換点になるのではないか、と思いま らば最高の下駄になろう!」と思えるかどうか、おそらく 表通りにはいかないものです。でもそこで、くさらずに「な す。しばしば不本意なことも起こってきます。まさに予定 る神への信頼ではないでしょうか? 人の念入りな計画も悪くはありません。周到な準備も必 人生には、思い通りに運ばないことが、たくさんありま 人の計画は、決して

買われ、琴の胴として、美しい音色を響かせることを期待 皆さんは、夏にはどんな思い出があるでしょうか? 頃、夏休みの計画表を書き、壁に貼っていたことです。勿論 し願うのです。ところが、いざ買われて行った先は、「下駄 いう一句があります。一本の「桐」の木が、将来は、「琴屋」に で宿題を片付けることが、小学校時代の年中行事でした。 (?)予定通りいったことは、ほぼなく、毎年8月30日と31日 暑い日が続いています。この時期思い出すのは小学校 正岡子規の俳句に、「花桐の琴屋を待てば下駄屋かな」

ている、と主は言われる。 わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留め レミヤ書29

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

わ

た

句

希望ヶ丘キリスト教会 本堀 秀

発行所/(公財)熊本YMCA

〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1 TEL 096-353-6397代)

発行人/光永 尚生 編集人/大塚 永幸 定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



人の足を守るのもまた、桐冥利(?)に尽きるかもしれませ だそうです。琴の胴にはなれなくとも、最高の下駄として、 湿性にも優れているので、最高に履き心地の良い下駄なの う。しかしまた、桐の下駄というのは、材質も柔らかく、 いものだということを、子規は、この句に詠んだのでしょ



屋」であったということです。人生は、願い通りにはならな



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動 地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2023年度基本聖句

マタイによる福音書 7章7節

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、 見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。